



## 『藤村と出会って』

一ツ谷区 川原田 雅夫

定年後、藤村記念館でお世話になっていきます。それまで藤村についてはほとんど何も知らない自分でした。案の定藤村を知らないと言事になりません。読書は好きとは言えなかった今までの人生で一番というくらい、記念館にある藤村に関する本を乱読しました。藤村の作品は正直、最初はあまり面白くありませんでした。ところが藤村の人生を知るにつれて、その生き方や作品の持つ意味に次々と興味湧いてきました。

『初恋』や『千曲川旅情の歌』に代表される詩人であり、『破戒』や『夜明け前』を書いた文豪藤村。しかし、藤村の人生は一生を通して寂寥感と孤独感をかかえている。幼くして親元を離れ他人の家で育ち、両親や身近な人たち、ふるさとの家までを若い時期

に失う。小諸で所帯を持ってから生まれた三人の女兒を、『破戒』の刊行前後に相次いで亡くし妻まで亡くなってしまふ。姪との間での過ちを悔いフランスへ渡り、帰国後も次々と藤村を苦しめる出来事が起こってくる。藤村自身も『東方の門』執筆中の大往生であった。明治・大正・昭和と、この波乱万丈な人生を筆一本でよく続けられたものだなあと感心する。

几帳面で繊細で慎重な面があるかと思うと、先を見通したうえで一步を踏み出していく大胆さや骨太さを併せ持つ。頑固で律儀な面があるかと思えば、気遣いや物腰の低さ、謙虚さや柔軟さがある。寂寥感、孤独感を漂わせているかと思えば、熱情的な面もある。藤村の真の内面にまではとても迫ることはできないが、人間・藤村の一端を知ると藤村の偉大さに敬服するとともに親しみが湧く。

記念館には、全国各地から



熱心な藤村ファンがそれぞれの藤村に寄せる想いや願いを持って訪れます。そして、永年の念願が叶ったと記念館入口のノートへ記していきます。〈久しぶりに晴れた信濃路を、孫と一緒に訪れた。『千曲川旅情の歌』、孫娘に是非藤村を偲んでもらいたい一心でここへ来た。彼女も将来きつとまた訪ねてくれるものと思う。その時、私はもうこの世にはいないだろう。短い文章の中に、この人の人生や想いが垣間見られます。今の仕事を通して小諸市の皆さんとの多くの出会いがあり、全国から訪れる藤村ファンの皆さんとの会話を楽しみまた小諸市の歴史や文化も学ぶことができ大変貴重な経験をさせていただいていることありがとうございます。〉

## 教員さん！ あなたのサークル

### おと音

### つち土



公民館まつり 陶芸体験

土の音は、60歳から80歳の17名の会員が和気藹々と陶芸作品を作っています。

この会では、茶碗や皿などの器だけでなく花器や人形も作ります。動物からオブジェまで思い思いに作る陶器は実に多彩です。講師はおりませんが、初心者には会員がそれぞれ得意な分野を親切に指導と楽しくやっております。

主な活動としては秋の公民館まつりに作品展示、陶芸体験、フリーマーケットに参加しています。

会員の親睦を計る為に陶芸を中心とする旅行もあり、今年4月に東京国立博物館の『茶の湯』展に行ってきました。

## やまびこの会



白馬大雪渓にて